







## 魚群が 織りなす 造形

「密度が濃い」。僕の中でタオの海を表 現すると、まず始めに出てくるキーワード がこれだ。骨密度ならぬ魚密度という言 葉を造ったとするならば、タオ島は間違い なく世界でもトップクラスの海になるのでは ないだろうか。外洋のビッグポイントである セイルロックやチュンポンピナクルなど、潮 通しの良いダイナミックな外洋はもちろんの こと、どこのポイントに潜っても僕たちの周 囲は魚、サカナ、さかな。それはそれは とんでもない光景だ。「決して魚種は多い わけではないのですが、この海の環境に 適応した種が爆発的に数を増やしている んです。」とタオ・ビッグブルーの名ガイド 大村 健さんは話す。その通り、タオの魚 群は爆発寸前の迫力。この魚に埋もれる 快感を味わってしまったら、もうこの海から 離れることはできそうにない。













## マクロファンも唸るタオの底力





**凄さのあまり魚群にばかり目が行ってしまいそうなところではあるが、じっくり腰を据えてマ** クロ撮影を愉しむことができるのもタオの大きな魅力だ。レンズの先端が鼻先に触れそうにな るまで逃げることのないフタホシタカノハハゼや、メタリックシュリンプゴビーに代表されるように、

とてつもなくダイバーにフレンドリーな魚たちがズラリと揃う。またイバラカンザシやウミトサカな ど、マクロ生物の魅力をいっそう引き立てる環境も整っている。この辺りはタオの海を潜り続 けるビッグブルースタッフ陣の十八番。的確なアドバイスを受けられることは間違い無いだろう。













昨年ニューオープンした「ビッグブルー・チャバ」は、ビッグブルーの日本人ゲスト専用の施設だ。モダンで美しくダイバーに必要な設備はすべて揃い、 宿泊するホテルやゲストハウス、レストラン、サイリービーチまでも全て徒歩圏内におさまってしまう、まさにパーフェクトなクラブハウス。今回の移店によりダイ ビングのスタイルにも変更があり、これまではたくさんの欧米人ゲストとも乗り合いで出かけていたダイビングも、「バンザイ号」を日本人専用船として使うこと ができるようになった。これでさらにゆったりとしたダイビングが約束されることは間違いない。2015 年もビッグブルーから目が離せないぞ。

















